

カキ落葉病情報第1号

令和2年12月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

角斑落葉病の発生量が過去10年間で最も多い！

本病の越冬伝染源を減らすため、落葉の処分を徹底しましょう！

1 発生状況

10月下旬に行った巡回調査（20ほ場調査）において、角斑落葉病の発病葉率は30.4%（平年10.4%、前年21.8%）、発生ほ場率は95.0%（平年54.3%、前年72.7%）でともに過去10年間と比較して最も高い状況です。



図1 カキ角斑落葉病の発病葉

2 カキ角斑落葉病について

本病原菌は、主に落葉中の菌糸で越冬します。また、前年秋に病斑上に形成された分生子が土壌中あるいは枝等に付着して越冬するものもあります。翌年の5月～7月に降雨などによって多湿条件が続くと落葉上に新しい分生胞子をつくり、それが第一次伝染源となります。

この分生胞子が雨風で飛散して新しい葉に運ばれ、葉裏の気孔から感染し、約30日の潜伏期間を経て発病します（図1）。また、病斑上に形成された分生胞子からも二次伝染します。発病してからの防除は困難であるため、**落葉を適切に処分して越冬伝染源を減らすなど、予防に重点をおいた防除が重要です。**

3 防除対策

- (1) 落葉は、園外に持ち出すか、土中に埋めるなど適切に処分して、本病の越冬伝染源を減らしましょう。
- (2) 樹勢の弱った木で発病しやすいため、肥培管理を適切に行い、樹勢を健全に保ちましょう。
- (3) 第一次伝染源による主要な感染時期である5月～7月に、予防的に薬剤散布を行いましょう。